

来期の株式上場へ向け助走の年



ジェイリース CEO 代表取締役社長
中島 拓氏

- ①NHK朝ドラの「マッサン」
- ②麦焼酎の水割りに合う焼き魚
- ③バーボン人生(矢沢永吉)

会社創設から11年目を迎えたジェイリース。昨年末に大分本社を大分市都町1丁目に移転し県内業務の統合を行ったほか、本年は2月の仙台支店オープンと4月の東京本社増床が控えており、「今年も忙しくなりそうです」と苦笑する。

また、同社は来期の株式上場を目指し、3年前から社を挙げて準備に取り組んできた。「成長性と将来性をいかに持続させていくかが、上場にチャレンジするわれわれに課せられた使命。消費者や業界に当社のポジビリティを見せていきたい」。昨年12月には全国から270人の社員が大分市に集結し、今後に向かっての心構えを共有した。「上場業務に直接携わる社員だけ

でなく、全社員が一人一人コンプライアンスを徹底し、みんなで株式上場を成し遂げたい」

6年前に東京で設立した家賃の情報センター「LICC」の専務理事としても多忙を極める中島社長。その重要な立ち位置もしっかりと認識しており、株式上場も業界全体の地位向上に向けた取り組みの一つに他ならない。

企業の成長に伴い、社会的責任も強く自覚している。昨年は職場環境を整え、東京本社に初の視覚障がい者を採用した。併せて県立盲学校にも自ら出向き、大分本社に新設する健康管理室のヘルスキーパー採用についての会社説明会を開いている。地元学生の雇用にも尽力。毎年定期的に20人程度の大

卒採用を行っているが、今後は地元の高卒採用にも積極姿勢を見せる。昨年は、大分ヒートデビルズの試合時に開催される車いすバスケットボールのオフィシャルスポンサーになった。大分トリニータのユニホームスポンサーも継続中で、忙しい合間を縫ってアウェイでの応援に駆け付けている。「選手が躍動する姿を見るとこちらも元気がもらえます」

「へボ将棋です」と謙遜する趣味の将棋は3段の腕前。1年のほとんどを東京で過ごす、週末の楽しみは新橋駅前SL広場で開催される大盤将棋の観戦という。「皆さん強い。勉強になります」と目を細める中島社長。地元愛を胸に、飛躍の年に臨む。



昨年は大分ヒートデビルズのスポンサーも